

キャリア教育における現状と課題

－滋賀県内K市の実態調査から－

上島 千明 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：キャリア教育，全体計画，年間指導計画

1. 緒言

近年，産業や経済の構造的変化が進行し，雇用形態の多様化・流動化へと直結している。また，学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え，社会問題となっている。このような背景から，学校教育でキャリア発達を促す重要性が示され，「キャリア教育」が行われるようになった。キャリア教育という言葉が中央教育審議会答申で示されてから15年，キャリア教育に対する考え方が見直され，キャリア教育に関する全体計画と年間指導計画を作成する必要性が文部科学省より提言されてから3年が経過したが，現在も地域や学校によってキャリア教育の捉え方や実践内容に偏りがあると考えられる。

そこで，本研究ではキャリア教育の現状を明らかにし，今後の課題について検討することを目的とする。

2. 研究方法

滋賀県内K市の小学校13校を対象に調査を行った。キャリア教育に関する全体計画や年間指導計画から，学校教育の中で，キャリア教育がどのような位置づけで行われており，どのような活動が行われているのか明らかにし，キャリア発達を促す教育活動について今後の方向性を導き出すこととする。

3. 結果と考察

1) キャリア教育に関する全体計画・年間指導計画の有無の実態

キャリア教育に関する全体計画は13校全てで作成されているが，キャリア教育のみの年間指導計画を作成している小学校は少ない。系統的なキャリア教育の取り組みを進める上で，全体計画を具現化した学年ごとの年間指

導計画も作成する必要があると考える。

2) キャリア教育と進路指導の捉え方の実態

キャリア教育と進路指導の定義が明確でないまま全体計画を作成している学校と，進路指導をキャリア教育の中核として全体計画に記載している学校が見られた。キャリア教育を進路指導という狭い枠でとらえるのではなく，小学校段階ではコミュニケーション能力の育成，夢や希望を持つこと，目標に向かって努力する態度の育成を行っていく必要があると考える。

3) 教科等の計画の実態

各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間の4つの領域を中心にキャリア教育の実践計画が立てられていることが分かった。教科別では，社会科や生活科での取り組みが多く，算数科や理科での取り組みは見られなかった。全ての教科指導をキャリア教育の観点から見直すことで，より幅広い観点からキャリア発達を促すことができると考える。

4. 結論

滋賀県内K市の小学校では，学校の特色に合わせたキャリア教育が計画されている。しかし，学校ごとにキャリア教育に対する認識に差異があることが分かった。今後は，校内研修の実施，年間指導計画の作成を行い，計画的にキャリア教育を行う必要がある。また，キャリア発達を踏まえた教科指導を行うことによって，系統的・組織的にキャリア教育を進めていくことが重要である。

引用・参考文献

文部科学省(2011) 小学校キャリア教育の手引き(改訂版)